

## 農薬安全使用のポイント

農薬は適正に使用すれば安全な資材ですが、適切に使用されないと周辺環境に危害を及ぼす恐れがあります。農薬を使用する際には使用基準を守り、適正使用を心がけましょう。

### 散布時の体調管理

- 散布作業は朝夕の比較的涼しい時間を選びましょう。
- 体調がすぐれない日、風の強い日は、散布作業をやめましょう。
- 2時間以上の長時間散布はやめましょう。



### 表示ラベルの確認

- 使用前には農薬の袋やラベルの使用法、使用上の注意など必要な注意事項をよく読み正しく使しましょう。
- 特に散布しようとする作物に対する登録の有無は必ず確認してください。



### 体調に異変を感じたら

- 作業中や散布後、体に異常を感じたら直ちに作業を止め、医師の診断を受けましょう。(その際には、散布作業の内容と使用農薬名を告げてください。)



### 散布時の装備確認

- 作業中正しい装備、服装で散布作業をしましょう。
- 散布液を調整する時も、ゴム手袋やマスクを必ず着用しましょう。



### 散布後の体調管理

- 休憩時や散布作業後は必ず手や顔を石けんでよく洗い、うがいをし、衣服を替えてください。
- 作業後は入浴して全身をきれいにし、肝機能が低下している場合があるため飲酒を控え、栄養のある食事をとって早く寝ましょう。



### 飛散(ドリフト)防止

- 周辺の環境や風向きも十分考慮し、農薬が飛散(ドリフト)しないように注意しましょう。
- 農薬の使用に当たっては、地域住民に迷惑をかけないように気を配りましょう。
- 薬剤が河川、湖沼、養殖池等へ飛散または流出しないよう注意しましょう。



### 農薬管理

- 散布液が残らないように調整を行い、調整した薬液は使い切りましょう。
- 農薬は専用の保管庫を設けて、必ず鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬は絶対に他の容器に移さないでください。



## 水稻除草剤の使用

水稻除草剤は種類（剤型）によって、圃場条件の向き不向きがあります。特に初期・中期除草剤を含む大半の除草剤は水を溜めておくことが大切なので、水管理に注意してください。

初中期除草剤は土が露出すると除草剤の成分が雑草に触れなくなるので除草効果が低下します。安定した効果を得るために次のことに注意して水管理を徹底してください。

- ①代掻きを丁寧にし、田面を均平にする
- ②天気の良い日を選び、気温の低い日は散布を避ける
- ③除草剤の使用量・使用時期を守る



### 除草剤の散布方法

#### 湛水散布の除草剤

ショキニーフロアブル、エンペラージャンボ・1キロ粒剤、マメットSM1キロ粒剤、セカンドショットSジャンボ、トドメ1キロ粒剤、シアゲ1キロ粒剤

水田に水を溜めて農薬を散布する方法で、水稻用除草剤では一般的な使用方法です。

- このタイプでは粒剤とジャンボ剤が多く使用されています。
- どちらのタイプも水持ちがポイントとなります。散布後3～4日間は5cm程度の水を保ち、7日間は落水、かけ流しを行わないようにしてください。

#### ※粒剤

除草成分が水中で溶け、拡散し土の表面に均一な処理層を形成し雑草の発生を抑えます。

#### ※ジャンボ剤

近年、畔から投げ込む手軽な散布方法により、多く利用されるようになってきました。ジャンボ剤は、粒剤のように水中に溶け込み、土の表面に処理層を形成し除草するのではなく、水面に膜を張り、雑草の発生を抑えます。このため、藻が発生した圃場や、風の強い日の散布は田全体に広がらず効果が弱くなってしまいます。

#### 落水散布の除草剤

バサグラン粒剤、クリンチャーバスME液剤などバサグランが含まれる剤

- 落水して水がない状態での処理（足形水程度）。
- 中期除草剤や後期除草剤で用いられる。
- 雑草の茎葉に付着するように散布し、処理後は2～3日落水状態を保つ必要があるため、中干し期に合わせた処理が効果的。
- 雑草の発生している部分だけに処理することも可能。

※中後期に水の確保が難しい圃場の場合、こちらの剤の方が効果的です。

■2月初旬から中旬にかけ各農会を通じて令和3年度の肥料農薬注文用紙を配布します。各圃場に適した注文をお願いします。